

3

むかしむかし、とある森^{もり}に、とても足の速^{あし はや}
いうさぎがいました。

ある時^{とき}うさぎは、森^{もり}の動物^{どうぶつ}たちを集めて言^{あつ}い
いました。

「ぼくはかけっこで負^まけたことが一度^{いちど}もない
んだ。きみたちにだっ^かてかんたんに勝^かてる
さ。どうだい、だれかぼくと勝負^{しょうぶ}してみない
かい？」

すると。



5

「それでは、^{わたし}私がやりましょう」

そう言ったのは、^{いっぴき}一匹のかめでした。

「あはははは、まさか、じょうだん
う！？きみとだったら、^め目をつぶって走っ
^かって勝てるさ！」

「いいえ、うさぎくん。^{しょうぶ}勝負は^{さいご}最後まで、な
にがおこるかわかりません。^{けつ}決して^{ゆだん}油断して
はいけませんよ」



17

Once upon a time, there was a swift Hare who lived in the woods.

One day, he gathered the other woodland animals and announced:

“I’ve never lost a race,
and I bet I can easily beat any of you.
Is there anyone among you
who can challenge me?”



19

"Well, I'll do it,"

A Tortoise said.

"Hahahah, no way,"

the Hare replied.

"You must be kidding. I can beat you even if I run with my eyes closed!"

"No, my friend. Nobody knows what happens in a race until the last moment. You'd better not be careless."

